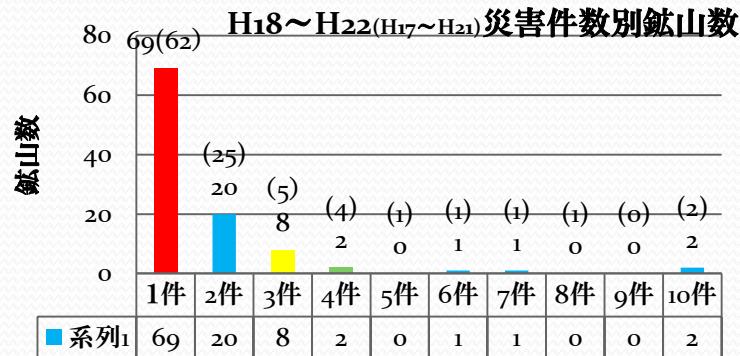


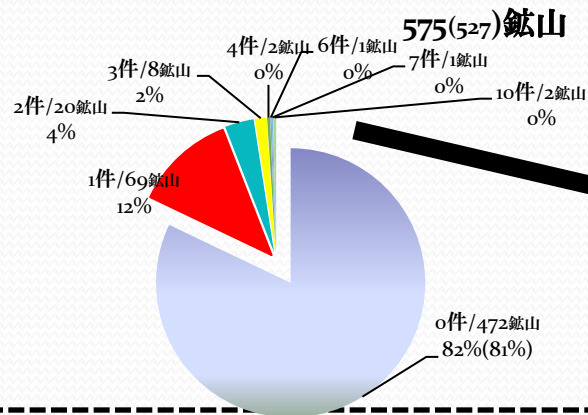
災害件数別鉱山数について

【現状】災害の発生は、特定の鉱山に偏って発生している。

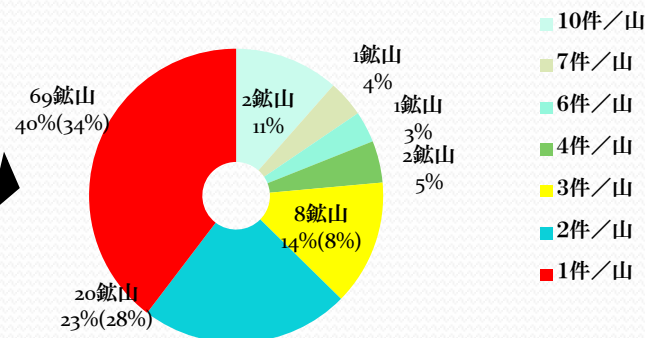
この5年間では、全鉱山のうち2割の鉱山で災害が発生し、うち1/3の鉱山は2件以上の災害が発生。



H18～H22(H17～H21) 災害件数別鉱山数の割合



H18～H22(H17～H21) 1鉱山当たりの災害件数別割合174(180)件



この5年間で複数災害を起こした鉱山は全災害発生鉱山数の33%。

一方、この複数災害発生鉱山について災害発生件数で見ると全災害発生件数に占める割合が60%。

よって、これら複数災害発生鉱山の災害を減らすよう注力することは効果的に災害件数を減らすことができると考えられる。

＜H18～H22の5年間のデータの説明＞

- ・無災害鉱山は472鉱山(全575鉱山に占める割合は82%)、災害を発生させた鉱山は103鉱山(全575鉱山に占める割合は17%)、全災害件数は174件。
- ・174件の災害が発生した103鉱山のうち、複数の災害を起こした鉱山は34鉱山あり、複数災害の件数は1鉱山当たり2～10件の災害が発生、その災害件数合計は105件。
- ・複数災害の発生した鉱山数 / 全災害発生鉱山数 = 34 / 103 = 33%
- ・複数災害の発生した件数 / 全災害発生件数 = 105 / 174 = 60%

※注 災害=危害

(目標2) 同じ鉱山で5年間で複数の災害を起こさない

指標：鉱山全体の過去5年間の年間平均災害件数を20件未満

■指標「年間平均災害件数20件未満」の設定根拠

災害発生現状

- H18～H22 (H17～H21)の5年間で174件 (180件) (年間平均災害件数は35件 (36件))。
- H18～H22 (H17～H21)の5年間に災害が発生した103 (101) 鉱山のうち、1/3の34鉱山で複数の災害が発生している。

目指すレベル

- これら災害発生103鉱山で、H18～H22の5年間で複数の災害を起こさなければ、件数は、103件 (△71件)。
- すなわち、年間平均災害件数が20件というレベルを目指す。